



恐竜時代の新たな発見

特別展絶賛開催中

7月15日から11月26日にかけて、恐竜博物館で「新発見 恐竜時代の支配者 進化するモンタナの恐竜たち」が開催されています。

開幕前日の14日には、在福岡米国領事館・パネッサ善治氏をはじめとして、各方面からの来賓を招き、開会式と内覧会が行われました。この特別展はモンタナ州立大学付属ロッキー博物館と恐竜博物館の姉妹館提携5周年を記念し、ロッキー博物館や熊本県と共同で開催しているものです。主催者を代表して蒲島郁夫熊本県知事は「この特別展は、ロッキー博物館のコレクションから近年発見された貴重な恐竜化石を世界に先駆けて公開する、まさに熊本県とモンタナ州の姉妹提携35周年の記念事業にふさわしい内容です。多くの皆様にご来場いただき、これを機に、熊本県とモンタナ州との相互理解が進み、その関係がさらに発展することを期待します」とあいさつ。特別展企画・制作・監修者として、ロッキー博物館のシエルドン・マッカミー館長は「この5年間の成果を大変誇りに感じます。日本中はもちろん、世界中の人々が御船町恐竜博物館を訪れ、今回の特

別展を楽しんでほしいです」と述べました。

今回の特別展では、実物標本を含む貴重な恐竜化石を約60点展示。ジュラ紀後期から白亜紀後期にかけて繁栄した恐竜たちの進化の様相を紹介しています。化石に残る進化の証拠は、角の形の変化や骨の形のちよっとした違いにすぎませんが、展示してある化石をよく見ると、それらの小さな変化に気付くことができます。進化の証拠を発見する楽しさを味わえる、見どころ満載の内容となっています。

特別展のオープン当日に、福岡市から来た谷瀬花乃さん（小5）は、「恐竜博物館に初めて来ました。竜脚類の大腿骨の大きさにびっくりしました」と笑顔で話しました。



恐竜たちの新たな時代の幕開け—



世界初公開となる角竜「ケラシノプス」の全身骨格—



▲竜脚類の大腿骨と背比べをする女の子—この大腿骨は、全長21.3m、体重約18トンの大きな竜脚類のもので。

新館の来館者は40万人突破！

早くも旧館の総入場者数に迫る勢い！！



▲様々な形をしたトリケラトプスの頭骨



▲迫力あるティラノサウルスの頭骨



▲音声ガイドで、細かい解説を何度も聞くことができます。



▲トリケラトプスのレプリカ標本に触ったり、乗ったりでき、記念写真も撮れます。